



お花見バスツアー



竹原佳子 (京都府木津川市)

関西では街中の桜も葉桜になってしまった 4 月 21 日(金)、ここ 4 年ほど恒例のようにになっている奈良県東吉野村『高見の郷』へ、今年最後の桜を求めて出かけました。

学園前駅と奈良駅にわかれて集合することになっておりましたが、学園前駅の集合場所を間違えて案内しておりました、皆様にご迷惑をおかけいたしました。何とか皆さんと連絡がとれ、30 分遅れでしたが無事出発することができました。

朝から少し小雨が降っており、天候が心配でしたが、現地では曇っていたものの、傘をさす事もなくホッとしました。

バスでは向野代表がたくさんクイズを出して下さり、楽しい時間を過ごしました。

現地で 2 名が合流し、総勢 29 名(ビジター 12 名)でのお花見となりました。

高見の郷はヒノキや杉を育てる林業を営んでおられた方たちが、林業の衰退を食い止めようと立ち上げられたまだ新しい名所です。日本全国に桜の名所はたくさんありますが、枝垂れ桜ばかり 1000 本という所は珍しいそうです。まだ 7 分咲きぐらいでしたが、山が桜色に染まり、山深い吉野にも春の訪れを感じました。



近年、クラブ関西で恒例となっている被り物やハッピーをご用意させて頂き、少年・少女に戻ったよう



にはしゃぐ皆さんの姿に、改めて元気をいただきました。

ゆっくり桜花を楽しんで頂いた後、少し山を下りたところにある、料理旅館の『高見山荘』で昼食。

名物の養殖あまごを使った料理を楽しみながら歓談。新しく会員になられた、東吉野村で宮司をされておられる松田さまに、東吉野村のお話をして頂きました。東吉野村は、日本最後のニホンオオカミの捕獲地。そして天誅組の最後を遂げた地です。まだ古き良き日本の原風景が色濃く残る所でした。



～東吉野 よもぎ話～

関西代表 向野幾世

高見山荘での昼食後、水分神社の宮司・松田富喜也氏から、東吉野・高見山のことなどお話頂く。

「水分」と書いて「みくまり」と読むことから始まり、松田氏の関わる神社についてお聞きすることができた。奈良には神社が 1,380 社あり、神職は、320 人いる。その 1/3 は春日大社、橿原神宮、吉野神宮に所属している。松田氏は県の神社庁理事・吉野郡支部長の職責にある。



高見山は奈良と三重の県境にそびえ、標高 1,249 m。霧氷や樹氷が見られ、関西のマッターホルンといわれる。万葉集に次のように詠まれている。

※^{わぎもこ}吾妹子をいざみの山を高みかも

大和の見えぬ国遠みかも～

奈良県の 60% を占める吉野は、吉野杉で有名だが、最近に限界集落になってしまった。松田氏はこの村の緑と水を生かし、18 年前からよもぎを栽培し、村おこしを図っている。さらに林の中に咲く桜を生かし、観光による村おこしを目指している。「高見の郷～しだれ桜」がそれである。

よもぎは、滋賀県彦根から師を招き、川原よもぎを栽培。血糖値を抑え健康にいいと、和菓子や茶入浴剤として販路を広げている。

松田氏は、この村おこしに取り組み、60 歳 70 歳代の 10 数人と共に力を込め、東吉野の驚家の土になりたいと・・・。高見山荘の大広間金の屏風が輝いて、松田氏の誠実さが私たちの胸にしみました。

~~~~~

●みよし野の 近道寒し 山桜 与謝蕪村

(谷口さん、出雲さんが徒歩で山を下り少し心配し

●夕暮の 久しきままに 糸桜

中村汀女

(バスの帰り道、日が長くなり、思いがけない糸桜に出会う！)

●さまざまな 事思い出す 桜かな 松尾芭蕉

(年を重ねて見る桜はもしや今年で終わりかと思う時あり・・・)

